

第7回長野市総合計画審議会（H18. 10.13）議事の内容

○議事（1）

第四次長野市総合計画基本構想の素案について事務局から説明（省略）

- ・ 前回の審議会では「人と地域がきらめくまち“ながの”」の「きらめく」については、漢字やバランスの問題を考えると収まりが良いような感じはする。
- ・ 第2章まちづくりの視点（都市経営戦略）の視点3は、視点1との差別化をしっかりとしようという前回の審議会での意見が反映されていて、視点1と視点3の役割がはっきりとしたと感じている。
- ・ まちづくりの目標（都市像）の「きらめく」という言葉は、「元気」とか「輝く」の方が動的な部分が出てくる。「元気」という言葉は現市長の考えでもある。総合計画の枠組み作りにあたっては、その辺りを意識した方が良いのではないかと。

○議事（2）

第四次長野市総合計画基本計画の素案について事務局から説明（省略）

- ア 重点施策案について
- イ 基本施策の指標案について
- ウ 各分野の素案及び指標案について

- ・ 高齢化の関係について、重点施策の10項目の中から落とした理由を教えてください。
→各分野にわたる施策を総合的に推進していく中で、重点施策は、今後5年間に効果的な行政を進めるために特に重要な課題への対応、そして市として先導的に取り組むべく、10項目を明示している。基本施策が44本、そのうち行政経営分野として全体を支える基本施策が6本、残りが38本の基本施策となり、事務局としては重点施策を10項目に抑えたいと考えている。高齢者に関する施策については、今後も引き続きかなりの予算が投入され、おでかけパスポートやシニアアクティブルームの開設など、一定の施策は展開されていくが、高齢者施策は国の制度によるものが多く、市として今後5年間に具体的に施策を重点的に掲げていくという点では、ここでは外しても良いのではないかとこの議論から外した。
- ・ 介護保険の関係や高齢者サービス等は、国の施策によるところが大きいと、長野市で、

という主体性では確かに難しいと思う。ただ、お年寄りが住みやすい環境をつくっていくことと子どもにとって育ちやすい環境は、共通する部分がある。重点施策の 1 つの中に地域福祉社会ということを入れ、主な施策として子育て、子育てや高齢者のことを入れるのはどうだろうか。

→今回の総合計画は、きちんとした施策体系にしたいというのが大きな特徴あり、基本施策にぶら下がる施策があるため、それをここで分解していくのは難しいと考えている。決して、重点施策に挙がっていないものはやっていかないということではない。総合的に計画を推進していく中で、社会状況等を勘案し、今後 5 年間の施策としてどれを重点的に打ち出していくのかということから重点施策を挙げている。重点施策としてきちんと 10 本の方針を押さえたいと考えている。

- ・中山間地域は高齢化が特に進んでいる地域でもある。高齢化率の特に高い地域への対策は必要なのではないか。

- ・「いきいきとした人と地域をつくる」と「“ながの”の魅力をいかす」ことは、2 つに分かれたものではなく、お互いに響き合わなければならないと思う。重点施策の「“ながの”の魅力をいかす」と「いきいきとした人と地域をつくる」の境界線はきちんと分ける必要はない。魅力をいかしながら、いきいきとした人と地域をつくるという形にしてもらいたい。「多彩な文化の創造と文化遺産の継承」は、いきいきとした人と地域をつくっていくということでもある。

- ・「“ながの”の魅力をいかす」と「いきいきとした人と地域をつくる」は、2 つに分かれたことでこの良さが分かりやすく、重点を読み解くことができ、重点施策の 10 項目を選んだ意義を感じられる。

→事務局としてもきちんと分かれるものではないという認識をしている。表記の仕方として、「“ながの”の魅力をいかす」と「いきいきとした人と地域をつくる」ということで示したものである。

- ・中山間地域、高齢化の活性化の基となるのは人なので、そこで育つ子どもがいなければならぬ。そこを故郷とする子どもがいなくなったときに、その地は長野として成り立っていくのだろうかということに危惧している。「中山間地域の活性化」のところ、人づくりを一緒に入れてもらいたい。

→地域参加や地域貢献、地域との関わり等については、行政経営分野として全体の施策を支えていく基盤という位置づけで示している。例えば「住民自治の推進」等の中で十分に反映させていく。

- ・「中山間地域の魅力の向上」と謳っているが、実際問題として、中山間地域に住んでいる

人たちがこの文章を読んでどう感じるのか。きれいな言葉を並べるだけでは駄目なような感じがする。

- ・少子化、高齢化によって高齢者の人口が増えてきているのに、その施策が抜けているのはどうなのだろうか。また、安心して子育てができる環境といった保健医療の部分も抜けている。

- ・「子育て・子育て環境の整備」の中に高齢者の関係も入れてほしい。やはり住民対象としての高齢者対策も重点の中に入れてほしい。

→13 ページに「子育て・子育て環境の整備」の背景、考え方を導き出すものとしての説明の中で高齢者のことを入れていくのは可能だが、施策の中に関連性を復活させてやっていくことについてはなかなか難しい。今後 5 年間に重点的に、主体的に、尚且つ戦略的に推進していくために、やはり 10 本に押さえないという考えである。

- ・「地域の特徴をいかす」として「コンパクトなまちづくりの推進」と「中山間地域の活性化」が一緒にされているが、これらは対象が違う。「中山間地域の活性化」のタイトルは別にした方がより具体的になると思う。重点施策の 10 項目に対してそれぞれ別のタイトルが付けられているのに、この 2 つだけが一緒にされている意味が分からない。

→「地域の特徴をいかす」は、中山間地域の活性化と中心市街地の衰退、再生が大きな課題である中で、中山間地域は中山間地域だけ、中心市街地は中心市街地だけということではなく、長野市の特性として相対的に考えていかなければならない。中心市街地としての地域特性、中山間地域としての地域特性ということで施策展開をする中で、互いに補えるものは補い、「地域の特徴をいかす」という視点からこの 2 つの重点施策を掲げていく。

- ・緑豊かな自然を持っているということが長野の魅力の 1 つだと思うので、それをタイトルのところで強く打ち出すことによって、独自性という部分を具体的に出していく 1 つになるのではないか。

- ・「いきいきとした人と地域をつくる」の中の「防災対策の推進」は大事なことだが、安全ということになってくると、防犯も入ってくるのではないか。防災と防犯は一体となるべきことではないかと思うが、防犯ということは入れられないのか。

→防犯の関係については、学校教育の関係、子育て・子育ての関係等で、具体的な細かな施策の中で載せているので、地域の安全ということで防災に絞ってタイトルをつけたものである。

・この文章を読んでも、長野市に元気が出る雰囲気を感じられない。活性化とか元気の出る雰囲気を表現の中へ入れてもらわないと、美辞麗句が並べられたという感じで終わってしまう気がする。

・重点施策と戦略的施策という捉え方をするのであれば、今後 5 年間は重点施策と戦略的施策をキーとして動かしていく方がより明確に分かるのではないかと感じた。高齢者については、戦略的施策としていかすべき。

→10本の重点施策は、今まで議論してきた44本の基本施策があり、それを前期5年で重点化して成果を上げていこうということから10本を選別しているというのが基本的な考え方である。

・リンクとは具体的にどのようなことか。

→リンクとは、少し膨らませた形で、他の分野のものと統合するための表現を1本つくったらどうか、例えば2つの領域にまたがっているようなものを主な施策で若干表現できれば良いということ。具体的には、高齢化の問題、福祉の問題、まちづくりの中での人の関連の問題を「参考；主な施策」というところで表現が多少できないか、どれか1本を削って高齢化を入れるか、或いは福祉を「子育て・子育て環境の整備」に変えてやっていくかということ。

・15ページの基本施策の指標の見直しのポイントというところは、長野市において日常生活をしているときのことを尋ねているということを明確にした方が良いと思う。ここには「回答者が社会をどう見ているか」と書いてあるが、この「社会」というのは日本全体なのかとか、そのような理解にもなってしまう。

→基本的には依頼文の中で明確に謳っていく。また、17ページの初めにあるとおり「あなたの日常生活の中で」ということである。

・アンケートの初めに属性について聞いているが、これはクロス集計をするのか。

→クロス集計をする。

・教育・文化のNo.30の「文化がおこなわれている」と普通は言うのだろうか。

・教育・文化のNo.30の「文化がおこなわれている」は「外国の人や文化との交流」だろうか。文化交流という言葉もあるので、「文化の交流がおこなわれている」だろうか。

・教育・文化のNo.30は、外国人と交流していることが問われているのか、地域で文化の交流がされていることが問われているのか、どちらかを言っているのか、両方言っているのかが分からない。

→基本施策の中で人との交流、文化の交流となっているので、この2つは入ることになる。

- ・都市整備のNo.38「魅力と賑わいがある中心市街地が整備されている」の「中心市街地」とはどこを指すのか。大岡地区の人が答えるときに、「中心市街地」とは大岡支所の周辺なのか、それとも善光寺周辺なのか、その辺りをどのように捉えるのかという疑問がある。

→専門家と相談してきたが、まだ分かりにくいという部分については、事務局でもう一度精査したい。

- ・都市整備のNo.41の「利用しやすい公共交通機関が整備されている」とは普通は言わないと思う。「公共交通機関が利用しやすく整備されている」という方が良いのではないかな。

- ・都市整備のNo.42は、「使いやすい道路が整備されている」と言うより、「道路が使いやすく整備されている」という方が読みやすいのではないかな。

→市民が答えやすい形のものに表現を変えていかなければならないと考えている。表現的に、国語的に分かりにくいということであれば、分かりやすい形で検討したい。

- ・都市整備のNo.43「高速インターネットなど、情報通信サービスを利用できる環境が整っている」は、私的な空間においてということなのか。例えば自宅にインターネットを使える環境が整っているという意味なのか、公民館や図書館等の最寄りの公共機関においてということなのか、この辺は明確にした方が良いと思う。

→「日常生活における」ということで、個人のものも含め、身近にある公的なスペースも日常的に使うということであれば含む。

- ・アンケートの最初に「あなたが主に活動する地域は？」という項目を設けることによって、例えば「中心市街地」といったときにどこかというのが拾い出せるのではないかなと思ったのだが。

→「日常生活の中で」ということなので、あまり細かく区分けをしたり注釈をしたりすると、より回答率が落ちるという場合もある。その辺は専門家と協議し、できるだけ分かりやすく、はっきりと、回答しやすいアンケートを提供したいと思っている。

- ・アンケート調査は、調査される側からすると極めて受身的なものである。～思いますか？と判断だけ聞いている。～どうしたら良いですか？何か提案はありますか？という形のものが見当たらない。例えば、「そう思わない」と答えた人の中にはなぜそう思うのか、どうすれば良いのかという意見を持っている人はいると思う。そのような人たちの意見を反映するようなアンケートの形は取れないものかな。

→今回のアンケートは、まちづくりの評価の視点を取り入れてアンケート項目をつくって

いくという観点で統一している。確かに、基本施策ごとに記述式で答えてもらうという方法もあるが、非常に分量が多くなり、集計的にも難しくなるため、市民の目線を把握し、計画の進行にいかしていくという視点である。なお、市民が施策について自分では分からないということが具体的に出てくる。そこから、市民に向けた長野市の広報が足りないのではないとか、その辺の分析は選択肢の中からも十分可能なのではないかと思う。考えることによって新たな取組をしていくといった形で考えていきたい。

- ・せっかくアンケートを実施するのだから、自分の意見を書きたい人もいだろうし、そのような積極的な意見を取り入れるという姿勢を見せることも必要なことだと思う。感じたこと、提案、分からないことなど、何でも良いからコメントを書く欄を設けるのはいかがか。
- ・アンケートの項目自体は大事なことだが、この機会に併せて自由に意見を書く欄を設けるというのは可能な気もするのだが、いかがか。

→その方向で検討したい。

- ・5,000人を対象に経費をかけて調査するわけだから、成果をフルにいかしてほしい。

- ・もし、私がこのアンケートを渡されて答えろと言われたら、ほとんどの部分が「分からない」になってしまいそう。一般的質問となっているが、あまりにも範囲が広すぎるし、漠然としている。

→表現によって「分からない」と答えざるを得ないようなところが出てくる可能性がないか、もう一度チェックする機会がある。

○その他

第四次長野市総合計画策定に係るパブリックコメントの実施について事務局から説明
(省略)

(意見なし)